

『在日ブラジル人児童のための算数教材 足し算・引き算 日本語クリアー』

本教材は、凡人社から発行された『足し算・引き算 日本語クリアー』（大蔵守久著、2000年）をもとに、日本の公立小学校に通うブラジル人児童のために作成したものです。

オリジナル教材は「コトバがネックとなって算数の内容がはっきりとつかめない」児童むけに、算数を学びながら必要とされる最低限の日本語を学べるようになっていますが、そこでは教材の活用方法については触れられていません。

そこで、今回は「指導ポイント&ヒント」を大蔵先生に加筆してもらい、さらにブラジルでの計算方法やポルトガル語からの視点も加えたものを「指導者用」として作成しました。一方「児童用」はオリジナル教材とほぼ同じ形を取りつつも、学習の助けになるように、重要用語のポルトガル語訳を挿入しました。

本教材の特長

1 コトバがネックになっている児童のために

本教材は、「コトバがネック」となって算数の内容がはっきりつかめない児童のために作りました。外国人児童はもちろん、長期にわたり海外在住をしてきた帰国児童その他、「教科内容理解のために《日本語》にもスポットを当てる必要のある児童」の指導に使うべき教材です。今回、本書をブラジルから来日した児童のためにポルトガル語訳を付したり、指導者のためにブラジルでの教え方に関する情報を盛り込んだりしましたが、「コトバがネックとなっている児童」のための配慮については基本的に変わりありません。

2 教科書に入るための「道しるべ」

小学校で使われている教科書は日本語が通じる児童を想定して作られています。ですから、日本語がよく分からない児童や、話せても抽象的な思考を必要とする日本語に慣れていない児童には「敷居が高い」つくりになっています。本書は、そのような児童のための「教科書導入書」もしくは「教科書への橋渡しテキスト」として位置づけて作成しました。ですから、無理にこの段階で評価はしなくてもよいでしょう。評価は教科書の問題に入ったところで行う方が時間的節約になり、時間が限られた教育現場ではより現実的なのです。

3 足し算・引き算の基礎をしっかりと習得

本教材は、(1位数) + (1位数) の足し算から始まり、(4位数) - (3位数) の引き算までを扱っています。これは、新学習指導要領の小学校3年生の前半までの内容に当たります。ここまでをしっかりと習得しておけば、あとの学年の考え方や計算方法もこの延長線上にあるので大丈夫です。

4 《イラスト》で難しい概念を分かりやすく

その単元で理解させたい概念（算数的思考内容）の習得を第一に考えました。そしてそのために「イラスト」を活用しました。「絵」そのもので概念が理解できるようにしました。そして、そこから「コトバ」の理解へと結び付けていっています。単に教科書のコトバを易しく書き換えたテキストではありません。むしろ、教科書のコトバをそのまま使うこと

によって、授業での「コトバ」「日本語」が理解できるようにしてあります。

5 スモールステップと一事習熟

大切な所、間違えやすい所では教科書より細かなステップを踏んで学習を進めさせるようにしました。また、練習問題での数値の選び方にもこのスモールステップの考え方を採用しています。ふつうは例題をやった後の練習問題では例題とは異なる数値で出題されますが、本書では、同じ数値や似たような数値で練習させ一つの問題に習熟させるようにしました。

6 構成

「児童用」と「指導者用」の2種類があります。共に40課から構成されています。また、重要と思われる用語を日本語、ポルトガル語で一覧にした用語集があります。

児童用

- ・ 重要語句のポルトガル語訳が各課の右上にあります。

指導者用

- ・ 各課の初めに「指導ポイント&ヒント」があります。各課の指導前に一読ください。特に注意が必要な箇所は、本文中に「指導ヒント&ポイント参照」で指示してあります。
- ・ 児童に必要な最低限覚えてもらいたい単語を「ニウタさんマーク」で本文中に指示しました。マークのモデルとなったニウタ (Nilta dos Santos Dias) さんは長年在日ブラジル人児童生徒への教育指導に携わられており、本教材のポルトガル語作成者です。



- ・ 特に指導で注意すべき箇所は、「大藏先生マーク」を本文に挿入して注意を促しました。大藏守久先生は 財団法人波多野ファミリス쿨の主管で、長年帰国・外国人児童生徒教育の実践と研究に関わっており、本教材のオリジナル教材「足し算・引き算日本語クリアー」の著者でもあります。このテキストの「指導ポイント&ヒント」も大藏先生が担当しています。



用語集〈ポルトガル語訳〉

本教材で使われる重要用語を日本語、ポルトガル語で一覧にしてあります。

指導される方へ

1 基礎の基礎から

「このレベルからスタートできそうだな」と思っても、もうワンランク下から教え始めるようにしてください。「できなかったから」と言って、後から学年を下げるようなことをすると、その児童のプライドを傷つけ学習意欲を殺ぐこととなります。どこからスタートさせるかを見極めることができるのは、そばにいる指導者だけです。

2 児童と一緒に

「教えよう」という姿勢より「児童と一緒に学ぼう」という姿勢で本書を読み進めた方がよいでしょう。目の前の児童と同じ視線で進めることによって、分かりにくい所がより鮮明になってくるはずです。

3 「何も足さない」「何も引かない」

概念を理解させ、問題を解いていくために「とりあえず必要で十分な」コトバで作成しました。これ以上のコトバを使うと、未知のコトバが増え理解が難しくなるおそれがあります。そのような理由で、他のコトバを使わず、本文で使われているコトバだけで進めるようにしてください。また逆に、これ以上コトバを省かないでください。これ以上省くと、在籍学級の授業で使われるコトバの量とのギャップが大きくなりすぎます。「何も足さない。何も引かない。」どこかのCMのようですが、まず、この精神で対象児童に当たってみてほしいと思います。

4 分からないコトバに出会ったら

本書のコトバがどうしても理解できない時こそ、ふだん児童と接している先生の腕の見せ所。その児童が知っていそうな同義語を探して説明してください。しかし、他のコトバに置き換える時には「一度に何通りものコトバ」に言い換えないう気をつけてください。まず、一つの言い方に置き換え、そのコトバで何度か説明を試みます。一度口にして分からなかったからと言って、次々と他のコトバを持ち出して説明することだけは避けましょう。

5 教科書の練習問題で仕上げを

前ページ「本書の特長」に書いた通り、本書は「一事習熟」の精神で作ってあるため、「練習問題にバリエーションがない」というデメリットを抱え込まざるをえませんでした。それをカバーするため、ある単元が終わったら、学校の教科書の練習問題を使って「仕上げ」をするようにしてください。

6 指導ポイント&ヒントに目を通してください。

指導者の方は授業前に必ず各課の指導ポイント&ヒントに目を通してください。指導上注意すべき点、指導の方法、ポルトガル語に関する知識、ブラジルでの計算方法などが書かれています。

7 習得済みの方法を尊重してください

ブラジルと日本では計算方法が異なる部分がありますが、重要なのは「正しい答えを導

くこと」です。既に計算方法が確立されている児童に対しては、そのやり方を尊重してあげてください。

8 「聞かせる」ことで日本語も覚えさせてください。

指導ポイント&ヒントにある【表現】を指導者ができるだけ反復して児童に聞かせてください。耳にする量が多ければ多いほど、その児童の記憶に残すことができます。

9 具体物を多用して理解の手助けをしてください

数字や言葉だけではなかなか理解できない場合は、図やものなど具体的なものを利用してながら説明してください。

10 児童の実態に合わせた所から利用してください。

本教材は学年別構成にはなっていません。学年にこだわらずに児童の習得段階に応じ、時には下の学年の内容から始めてください。

11 「用語集（ポルトガル語訳）」は最終的なツール。

冒頭にもありますように、本教材は算数を学ぶと同時に教科内容理解に必要な最低限の日本語を学ぶようにもなっています。ですから、やさしい日本語、および具体的な図や物による説明をしたのだけれど、それでもその児童が理解できない、という状況になってはじめてポルトガル語訳を参考にしてください。

12 ダウンロード方法

本教材は PDF ファイルをダウンロードして印刷して使うものとなっています。ダウンロードの方法には以下の2通りがあります。

①「一括ダウンロード」

教材全体を一度にダウンロードします。1冊のまとまった本として利用したい方向けです。

②「課毎にダウンロード」

1課につき1ファイル、全部で40ファイルとなっています。学習進路等にあわせて、必要なところだけ取り出したい方向けです。

* 「指導者」、「児童」では内容が異なりますのでそれぞれダウンロードしてください。

* 「～くると」、「～たべると」、「～あげると」、「～つけると」、「～ひくと」、「～かくと」、「～とると」、「1くりさげると」、「十のくらいは0だから」、「□から□はひけないから」といった日本語の表記の後には必要に応じて「、」を入れてご利用ください。